

活動レポート

防災委員会

文責：都市部会・水工部会都市部会長 星野利幸

～ 阪神・淡路大震災から20年 ～ 平成27年度 防災研修会報告

1. はじめに

平成7年1月17日早朝に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)から20年が経ちました。防災委員会の原点は、ここにあるといっても過言ではありません。防災委員会では、平成19年からほぼ毎年地震災害およびその復興をキーワードとして被災地を視察しております。自分の目で被災地を見つめ、防災に関わる知見の蓄積を行い、技術士としてどう防災に取り組むべきかをテーマとして、防災研修会を実施しています。今年度は、原点回帰し、発災から20年経過した神戸市および淡路島を訪れました。以下に、平成27年11月19～21日に実施した平成27年度防災研修会(参加者14名)の参加報告を行います。

2. 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

神戸市の西館と東館からなる「人と防災未来センター」は、平成14年4月に兵庫県により設置されました。阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、地域防災力の向上、防災政策の開発支援、実践的防災研究等を実施している施設です。西館は、防災・減災体験フロア(2階)、震災の記憶フロア(3階)、震災追体験フロア(4階)から構成されています。入場料の支払い・受付後、我々一行をアテンダントが4階に案内し、各フロアでボランティアの説明を受けながら下階方向に移動します。震災の記憶フロアでは、地震直後から復興過程の生活・まちの姿をグラフィックで解説、また震災追体験フロアでは、震災直後の街並みがジオラマ模型でリアルに再現されています。個人的に大きな興味を持ったのは、東日本大震災とのモーメントマグニチュードでの比較展示です。あれほど被害の大きな阪神・淡路大震災でし

たが、東日本大震災の約1/30に満たないものであることが衝撃的でした。(写真-1：上段が東日本大震災、下段左端が阪神・淡路大震災)



写真-1 モーメントマグニチュード比較

また、東館の水と減災について学ぶフロア(3階)では、今後起こるとされている南海トラフ大地震による巨大津波被害に関わる展示がされています。

見学当日は平日でたくさんの児童・生徒が来館しており、災害のむごさを理解し、防災学習をすすめることは大変意義のあることと再認識しました。

3. 北淡震災記念公園

レンタカーで明石海峡大橋を經由し、淡路島を訪れました。北淡町(現淡路市)内には阪神・淡路大震災の震源となった野島断層を保存している北淡震災記念公園があります。

野島断層は活動を繰り返す活断層で、今回の地震による地面のズレは水平方向に2m、鉛直方向に1.2m、延長10kmに亘って出現しました。北淡震災記念公園の野島断層保存館では、地表に現れた断層の一部と断層のズレによって破壊された道路や側溝、生け垣をそのままの状態屋内保存しています。

また、奇跡的に破壊を免れた保存館隣の人家をメモリアルハウスとして保存し、「地震直後の台所」も再現されています。震災から20年が経過した今は、町内には災害の面影は全く残っておらず、平穏で平和な日常が戻っています。しかし、我が国は地震大国で、将来起こりうる大地震に備えなければなりません。北淡震災記念公園は震災を風化させず、大人から子供まで皆に地震の脅威を実感し、真剣に防災を考えてもらいたいという意識が伝わる施設でした。



写真-2 野島断層保存館内のズレが生じた側溝
(執筆：水工部会 渋谷 義仁)

4. 神戸港震災メモリアルパーク

神戸市の元町駅の南側に中華街があり、さらに南へと下り海に面したところに神戸港震災メモリアルパークがあります。ここには阪神・淡路大震災により被災した“メリケン波止場”が約60mに渡りそのままの状態で作られた遺構があります。ここでは、大震災の大きさ・むごさを直接的に感じ取ることができます。



写真-3 メリケン波止場の遺構

メリケン波止場の“メリケン”とは、旧アメリカ

領事館がすぐそばにあったことから、“アメリカ”がなまって“メリケン”になったとのこと。

5. 福良港津波防災ステーション

淡路島の福良地区は兵庫県内最大の津波被害が想定されており、このため防災戦略拠点としての福良港津波防災ステーションが整備されました。ここは津波の恐ろしさと逃げ方を学ぶ場、また危機管理・防災戦略を考える場となっています。

東南海・南海地震での津波は、短時間で到達すると予想されている場所もあり、遠隔で津波防災施設を自動開閉操作する必要があり、ここではこのための最新鋭システムが導入されています。

我が国の海溝型地震は、近い将来に発生する確率が高く、全国的に備えを早急に進める必要があります。そのためには、先進事例である福良港津波防災ステーションから学び、取り組むことがとても大切と感じました。



写真-4 自動開閉遠隔操作制御システム
(執筆：都市部会 藤田 和成)

6. おわりに

阪神・淡路大震災での衝撃的シーンはたくさんありますが、中でも阪神高速道路3号神戸線橋梁が横倒しになったシーンが忘れられません。阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの敷地には、この倒壊した実物橋脚の一部がモニュメント的に設置されています。今回の研修では、震災の記憶を保存し、如何にして後世に語り継いでいくか？という課題を認識しました。一方、東日本大震災では復興事業が進められていますが、数十年後人々の生活が元に戻りその次の大きなテーマは、震災の記憶保存であると、今回の研修を通じて感じる事ができました。